



大塚病院

〒170-8476

東京都豊島区南大塚二丁目8番1号

電話 03-3941-3211

病院の概要

周産期医療、小児医療、救急医療、がん医療、リウマチ膠原病医療、そして小児精神医療（外来）を重点医療として掲げ、地域に密着した総合的医療を展開している病院です。ほぼ全ての診療科を網羅しつつネットワークが軽いというバランスのとれた規模が特色で、都心にながら静かな環境にある病院です。500gで出生した超低出生体重児から100歳を超える御高齢の患者さんまで、あらゆる年齢層の患者さんを受け入れています。総合周産期母子医療センターとして、M-FICU及びNICUを活用した高度の周産期医療を提供しており、都内でも有数の母体搬送受け入れ実績及び超低出生体重児入院実績をあげています。総合診療や救急医療にも力を入れており、充実した研修を行う事ができる施設であると自負しています。また、優れた医療人材、コメディカル、事務スタッフが集まり、患者や地域の医療機関を引き付けて離さない魅力ある病院“マグネット・ホスピタル”であることを目標としています。

■ 診療科目

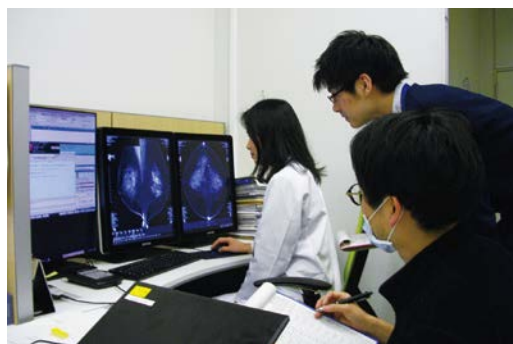
内科 児童精神科 神経科 リウマチ膠原病科 小児科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 皮膚科
泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 麻酔科 口腔科 診療放射線科 救急診療科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・内科 (広尾/駒込/墨東/多摩総合/神経/大久保/豊島/東京医科歯科大学病院/東邦大学医療センター大森病院/草加市立病院/東京都済生会中央病院/JAとりで総合医療センター/慶應義塾大学病院/東京歯科大学市川総合病院/横浜市立みなと赤十字病院/川崎市立井田病院/横須賀共済病院/平塚共済病院/土浦協同病院/東京女子医科大学病院/島しょ等)
- ・小児科 (小児総合/日本大学医学部附属板橋病院/慶應義塾大学病院/島しょ等)
- ・麻酔科 (広尾/駒込/墨東/多摩総合/神経/小児総合/東部/大久保/多摩北/荏原/豊島/慶應義塾大学病院/さいたま市立病院)

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・内科 (広尾/駒込/墨東/多摩総合/大久保/荏原/豊島)
- ・外科 (墨東)
- ・産婦人科 (多摩総合)
- ・小児科 (小児総合)
- ・麻酔科 (広尾/駒込/墨東/多摩総合/東部/荏原/豊島)
- ・皮膚科 (墨東)
- ・泌尿器科 (駒込)
- ・放射線科 (駒込/多摩総合)



(放射線科研修風景 (マンモグラフィ読影実習))



(小児科研修風景)

臨床研修委員会委員長からのひとこと



内科医長
吉川 桃乃

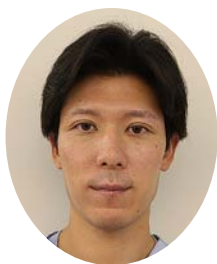
初期研修では多くの診療科をローテートして医師としての基本的な心構えとプライマリケアの基本的な診療能力を養いますが、後期研修では専門領域の研鑽を積んで学会の認定医資格を取得することが目標になります。大塚病院では、専門研修に加えて総合診療能力を育成しバランス感覚の優れた医師を育てたいと考えています。

「総合周産期母子医療センター」は常時三次救急対応で高度な周産期医療を提供しています。産婦人科には豊富な人材が揃っていて都内1～3位の母体搬送受け入れとともに悪性腫瘍や不妊症の治療も行っています。ちなみに超緊急帝王切開は手術決定から胎児娩出まで20分以内です（最短実績12分）。新生児科ではNICU15床、GCU30床を備え常に都内5位以内の1000g未満の超低出生体重児受け入れ実績を誇っています。

また、当院は区西北部保健医療圏の二次救急医療機関として、また地域連携医緊急診療依頼専用電話を活用し、「断らない救急」をめざしています。救急患者取扱い数は年間1.7-2万例あります。2021年には1次脳卒中センターとしての認定を受け、脳卒中急性期の疑われる患者に対しすみやかな診断・治療をおこなっています。超高齢社会にあっては自分の専門外の問題に取り組まなければならないことも多いのですが、各科で常に協力体制をとって診療にあたっています。

多くの優秀な指導医や習熟したコメディカルスタッフが充実した研修のお手伝いをします。横の連携のよい「アットホームな雰囲気」の病院で研修できるよう、皆さんをお待ちしています。

シニアレジデントからのひとこと



産婦人科
3年次
西中 大祐

当院は東京医師アカデミーに属しております。東京医師アカデミーは、14病院が連携し、様々な施設で研修することでカリキュラムの充実や指導体制の強化を図り、充実した医師育成システムを備えた制度です。他施設での研修を行うことで様々な治療方法や多彩な症例を偏りなく経験することができます。

当院での産婦人科研修は、分娩、救急外来、母体搬送、病棟業務、一般外来について一から学ぶことができ、研修1年目から主治医として主体性を持って患者様の治療に携わることができます。また当院ではチーム制を採用しており、診察や治療方針等で困った際は上級医にいつでも相談できる体制が整っております。そのようなサポート体制が充実しているため、私たち後期研修医が生き生きと日々の診療を行うことができるのが当院産婦人科の最大の特徴といえます。また、当院産婦人科の特性として総合周産期医療センターの役割を担っており、様々な合併症妊娠など多数の症例を経験することができます。

各科の横の連携も市中病院だからこそ、垣根が低く相談しやすい環境だと思います。是非一度見学にいらしてください。みなさんのお越しを当院職員一同お待ちしております。



(産婦人科研修風景)



(集合写真)